

V	VS (フイエス) 俗に：バイタル	<p>バイタルサインのことで、生命維持に必要な徴候。医療上で人に対するバイタルサインとは、血圧・脈拍・体温・呼吸であり、意識レベルを加えることもある。</p> <p>体温：36℃～37℃が正常範囲で、小児は一般的に高く、高齢者は低い。  脈拍：安静時の一分間の脈拍は60～80回、100回以上は頻脈、60回以下は徐脈。  遅すぎても、早すぎても意識レベルが低下する。  血圧：収縮期(上)は139 mmHg以内、拡張期(下)は89 mmHg以内、それ以上は高血圧で治療対象になる。低血圧は100mmHg以下。  呼吸：安静時は12～20回である。通常呼吸する時に使用していない筋肉を使用して呼吸をしている時は、異常の時です。  *下顎を動かしながら呼吸をして、呼びかけに反応しない。</p> <p>意識レベル：  GCS (グラスゴー) か、JCS (3-3-9度方式) で急性期の意識障害の評価。  GCS：合計点数が低くなるほど意識が悪いことを表す。世界で広く採用。  日本では脳神経外科領域で用いられることが多い。  JCS：数値が大きいほど意識障害が重いことを表す。日本だけで広く普及。</p> <hr/> <p>付記 (7ポイント) 個体差・気温・時間・精神状態などにより変動があるので、利用者の普段の値を知っておくことが異常の発見になる。スポーツをしていた人は脈が遅い！熱が出ると脈拍が普段より速い！血圧は原疾患の影響・室温・精神状態など環境に影響を受けやすい。安静時の血圧を知っておくことが大切！</p> <p>GCSは世界で広く採用。開眼 (E) 言語 (V) 運動 (M) から評価する。意識状態を簡潔かつ的確に表現できる。  *記載例：E2点、V1点、M2点 合計4点 (15点が良好)</p> <p>JCSは覚醒度によって分けていて簡便であるが、意識障害を正確に評価できないという欠点を持つ。  *記載例：Ⅲ-200 (0が意識清明である)</p>
X	XP X-P (エックスピー)	<p>X線一般撮影 (俗にレントゲン撮影という) のこと。X線を用いた写真撮影のこと。診断に有用。</p> <hr/> <p>付記 (7ポイント) 現在は、レントゲンのデジタル化が主流。デジタル化は、放射線の被爆量も数分の1、医療機関でデータの共有化が図れる、現像液・定着液の有害物質も不要などのメリットがある。</p>

津島市民病院 救急医療部長 松永宏之先生監修  
高齢介護課在宅医療連携G 2013年3月作成